

あし

ハイキングクラブ



ちんぐるま

第338号

2017年12月12日発行

先月の山行

- ☆ 11月5日(日) 御在所岳 山行報告参照
- ☆ 12(日) 三頭山 山行報告参照
- ☆ 26(日) 横山岳 山行報告参照

12月の予定

- ☆ 10日(日) 金毘羅山
- ☆ 鷄冠山&竜王岳 605m(滋賀県栗東市)
周遊コース 登り3時間
6:00カネキ運輸 CL
- ★ 12日(火) 忘年会 味見屋 例会を兼ねる
幹事宮本重信
- ☆ 17日(日) 鷹落山
鬼が岳, 新しく出来たコースを周遊する
7:00 雪建(春日町) CL

1月の予定

- ☆ 2(火) 日野山
7:00 雪建 CL
- ★ 11(木) 例会
- ☆ 14(日)
- ☆ 28(日)

冬季は積雪を考慮し決定します。

赤い文字は山遊会山行

山行申込み方法

・例会時に未定であったり、山行申込済で都合によりいけなくなった場合は、前々日夜までに山行リーダーへ直接連絡してください

山の予定は天候に左右されます。より hot な情報は

<https://asihiking2.jimdo.com/山行計画-1>

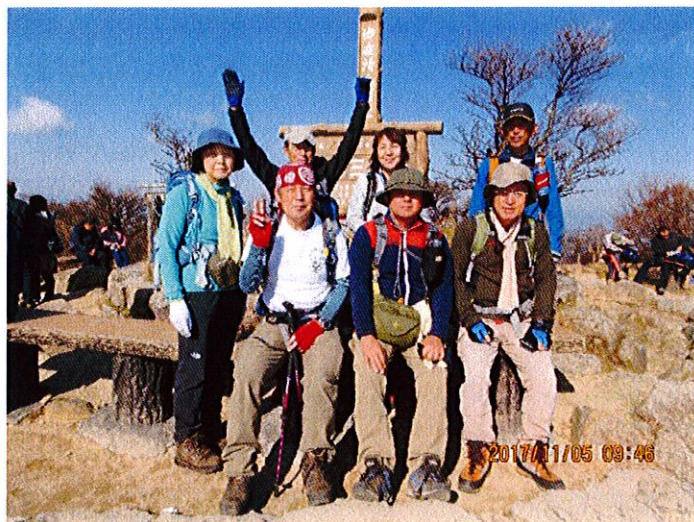
検索し再確認して下さい。

山行計画書を提出して下さい

クラブ山行の場合はリーダーが、個人山行の場合はそれぞれで山行前日迄に宮本会長まで。

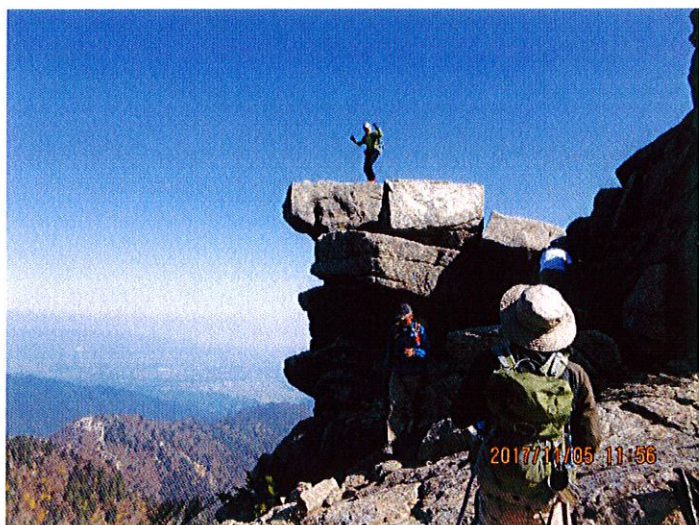
御在所岳 1212m

日時 2017年11月5日



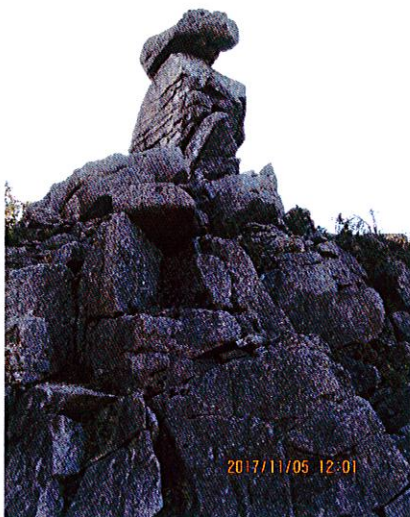
今日の山行は御在所岳から国見岳のコースです。御在所岳の駐車場が一杯になる恐れがあるので、出発時間を30分早めた。6時30分頃菰野町道の駅でトイレ休憩に入るが、すでに登山者で満車状態。御在所岳の駐車場に向かう。すでに側道に停めてる車がある。最初の駐車場は満車、さらに上に上がるが満車、そのまま上に上っていく。側道に停めてある車の列が続く。停めれそうな側道を見つけ駐車した。30分早く出たのにこの状態、30分遅かったら停めれなかったかも？支度を整え出発です。中道コースから登ります。いきなりの急登。登山者が多い。渋滞しています。伴藤さん風邪で体調不良、徐々に遅れだす。心配です。友清さんが伴藤さんに付いた。私たちは先におばれ岩まで行って、待機することにした。おばれ岩、巨大な岩2枚が斜めに重なっている。倒れないのが不思議。5合目に着く。5合目は平らな大きな岩が自然の展望台になっている。5合目を過ぎると御在所岳のシンボルになっている地蔵岩が出て来る。巨大な2つの岩がそそり立ち、その2つの岩を裂くように真四角の岩が2つの岩の上に乗っている。真四角の岩が頭で、2つの岩が胴体に見立てているところからお地蔵さんになぞらえている。6合目はキレットです。ここはいつも渋滞す

るところです。岩場にクサリがあり、高さはそんなに無



いので慎重に下りれば問題は無い。6合目を過ぎると大きい岩の急登です。8合目は岩峰になっている。岩にクサリが張って有り、トラバース気味に下っていく。ここを過ぎれば危険な箇所は無くなる。最後の長い登りが始まる。登り終えると、富士見岩の横に出た。富士見岩から大黒岩、鎌ヶ岳、眼下に菰野町が見える。ロープウェイ山上駅に向かう。ロープウェイで上ってきた観光客で一杯です。ロープウェイ山上駅を通り、スキー場に出た。真っ青な空、一面緑のスキー場を登っていく。気持ちいい場所だ！頂上に着く。昼食の場所を確保し、望湖台に向かう。望湖台から天気の良いせいか琵琶湖は見えなかった。今日の昼食は豚汁でした。強く冷たい風が吹く中、温かい豚汁は体にしみる。昼食後はあしハイキングでは初めての国見岳に向かう。裏道を下りる。国見峠の分岐に着く。裏道の8合目です。落葉した木々の中を登っていく。白い砂場に様な場所に出る。振り返ると御在所岳がよく見える。また落葉した木々の中を進む。石門と国見岳の分岐に出る。石門に向かう。自然が作り出した石の門に皆感動してる。石門の上に乗ってみる。100人乗っても大丈夫！国見岳の頂上に向かうがすぐに着く。頂上の岩に登って、下山道の国見尾根の天狗岩とゆるぎ岩を見る。下山開始です。最初に天狗岩に出る。下村さんが先に登っていく。続いて岩本さんも友清さんも登っていく。下村さんが天狗岩に乗っている。怖く無いのでしょうか？天狗岩を下り難い。掴まる場所がない。何とか天狗岩を下りる。天狗岩の横を通り今度はゆるぎ岩です。すぐに下村さんが登っていく。ゆるぎ岩の上に乗ると岩が揺れると言っているのに、片足でゆるぎ岩を踏んだ。本当に揺れたので慌ててゆるぎ岩を下りた。『怖い〜』と言っている。にも関わらず岩本さんも友清さんも続いて登っていく。怖さを知らないのでしょうか？本当の怖さは、ゆるぎ岩の真下から見上げて見る事です。ゆるぎ岩の2辺が空に飛び出してい

る。最初にこれを見たらとても登る気にはならなかったと言っている。これで今回の見所は終わりです。後は急坂を下っていくだけ。迷いそうな登山道です。やがて藤内小屋に着く。藤内小屋に向かいは紅葉が見頃になっている。紅葉を見ながら裏道を下りていく。御在所岳と国見岳は見所満載で感動の山行になりました。鈴鹿セブンマウンテンは面白い山です。



大師山～三頭山 777m

日 時 2017年 11月 12日



今日は勝山大仏の裏山、大師山から稜線を歩き、三頭山から平泉寺に下りるコースです。勝山大仏の駐車場に車を停める。1台も停まっていな。宮本さんが不安そうに端に停めた。住宅街を通り、登山道に入る。動物侵入防止の柵がしてある。その前に立派な駐車場があった。以前は柵も駐車場もなかった。しばらく進むとすぐに2合目になる。標高が550mしかないの、すぐに次の合目が出て来る。9合目手前の大師堂に着く。杉の大木が1本、雷が落ち木が裂け黒く焦げてい

る。9合目に着くとようやく日があたるようになった。紅葉も広がってきた。頂上に着く。空気が澄んでいるので山並みがくっきり見える。越前甲を中心に山並みが広がる。眼下には九頭竜川、勝山の町並み、恐竜博物館もしっかり見えた。目を横にやると法恩寺山、経ヶ岳もよく見える。三頭山に向かう。紅葉の尾根を進む。スキージャムが同じ高さに見えたのが徐々に下の方に見えるようになってきた。三頭山に着く。スキージャムが大分下になった。法恩寺有料道路も見える。法恩寺山も近くに見えた。反対には荒島岳も見える。ここで昼食です。今日はラーメンです。天気はいいのですが、温度が低いので美味しいラーメンで温まりました。下山は平泉寺に下ります。すこし下りただけなのに、登ってきた時の紅葉とはまったく違う。赤や黄色のもみじが綺麗だ！紅葉の奥に雪？化粧の経ヶ岳が、一段と綺麗に映える。尾根道と谷道の分岐に出る。紅葉の綺麗な尾根道に行く。友清さんが登山道で何かを見つけた。スズメバチの巣が道に落ちている。周りにスズメバチも飛んでいる。すぐにその場を離れる。遅れている宮本さんと岩本夫妻がスズメバチの巣に気がつくか気になる。剣之宮で後続を待っていたが来ない。下から声が聞こえた。電話をすると谷道を下りたとのこと。先に進むことにした。平泉寺に着く。大勢の観光客だ！久しぶりの平泉寺は相変わらず苔が綺麗でした。



湖東三山と鶏足寺紅葉めぐり

日 時 11月 23日

雨が時折降る中、湖東三山の内の西明寺です。朝8時過ぎに到着。駐車場に誰も停めていない。惣門から入る。入るとすぐに石段がある。石段を登っていくと、赤い紅葉が目飛び込んでくる。いきなり撮影開始です。石段を登ると左手に不断桜の立札が。門の中に入

ると白い小さな桜が咲いている。これが不断桜で今が見頃だそうです。名神高速道路に架かっている紅葉の橋を渡ると、苔が一面に広がっている。広く大きな石段が上に伸びている。登り切ると右手に受付がある。車はこの受付まで上がって来ることができるので、急に人が増えた。名勝庭園『蓬莱庭』に入る。いかにも日本庭園であるが如き池があり、歩いて登れるように作られている。池の上に出るとまた苔が一面に広がっている。雨が降っているため苔が生き生きしているようだ。登り専用の道を登っていくと、真っ赤なもみじ、その奥に三重塔が建っている。左手には本堂がある。いずれも国宝の建物である。鎌倉時代の建設物で趣が違ふ。二天門から覗く紅葉も素敵だ！この紅葉の見所は赤いもみじと三重塔のセッションでしょ！

西明寺の次は、金剛輪寺です。駐車場はまだ空いていた。黒門から入ると赤いもみじが両脇に並んで奥まで続いている。紅葉のトンネルです。赤門の前を通り、白門をくぐると、名勝庭園に入る背の低い門がある。その門の屋根にはもみじの落ち葉が積もっている。なんとなく風情を感じる。中に入ると、桃山期の庭園、江戸初期の庭園、江戸中期の庭園と続く。うまく崖の岩を利用した見事な庭園です。明寿院に上がり、中から見る紅葉はまるで絵画のようです。庭園を出るとちょっとした山道になる。参道に出ると千駄地蔵が両端にどこまでも並んでいる。異様な光景です。急な石段が出てきて、見上げると二天門が見える。二天門をくぐると血染めの紅葉です。本堂と血染めの紅葉、三重塔と血染めの紅葉、赤の色が違う気がする。金剛輪寺の見所は庭園と血染めの紅葉です。

金剛輪寺の次は、百済寺です。前回は駐車待ちだったが、今回は寺の前の駐車場に停めることができた。門をくぐり本坊庭園に入る。池は廻遊式になっている。池の周りの紅葉を楽しみながら一周する。赤、黄色、緑など多彩な色が池に映り込んでいる。庭園から少し登ると琵琶湖や比叡山等が一望できる遠望台がある。天候も晴れてきたのでよく見えた。参道の長い石段を上がると仁王門の大きなわらじがある。仁王門の中には金剛力士像が2対置かれている。本堂の周りには紅葉はあまり無い。前田さん伊部さん伴藤さんが鐘桜の鐘を鳴らす。腹に響く様な音です。石垣のある石段を下ると両側の紅葉が散っている。散る紅葉もいいものだ。百済寺は天下遠望の庭園と石垣の紅葉が見所でした。湖東三山の紅葉の次は、鶏足寺です。木之本町古橋に入ると、最初の駐車場が満車、バス停には観光バスが何台も停まっている。大勢の人が行列をなしている。その横を通り過ぎ古橋の町の中に入ろうとするが、誘導員がダメだと指示をする。行って行っても町中に入れない。ついに町から離れてしまいました。引き返しダメなら諦めようとしたが、誘導員が入れと手を振っている。町中に入ると駐車待ちの渋滞です。前の車が動き

流れだした。ようやく駐車できた。まず己高閣から行くことにした。石段を登り参道を歩く。両側に赤いもみじの紅葉、先週より色が濃い様に感じた。さらに進み観音堂に登り、己高庵に出る。己高庵から鶏足寺に行き交う大勢の人が見える。田んぼの道を進み、坂を登りと鶏足寺です。先週より葉が大分落葉しているように思えた。その為、通行禁止の道は赤い絨毯と化していた。落葉が見応えになるとは恐れ入りました。鶏足寺の石段を登る。色鮮やかな紅葉が石段両側に鶏足寺まで続いている。鶏足寺前に立ち振り返ると見事な紅葉です。鶏足寺からは石道寺に向かう。石道寺の紅葉も素晴らしい。

駐車場に向かって行く。小学校の前で猛烈な雨が降ってきた。足元がずぶ濡れです。駐車場に着くと晴れてきた。皮肉なものだ。

鶏足寺の紅葉は素晴らしいが駐車がもう一つです。

横山岳 1132m

日 時 11月26日



週間天気予報では余りよくなかったのに晴れてしまった。賤ヶ岳にかかると濃霧になった。晴れる兆候だ。いい天気になりそうだ。登山口駐車場に着くと1台車が停まっていた。若者が支度をしていた。登山案内図を見て皆で相談。白谷本流コースは増水の恐れがあるので、三高尾根から東尾根コースに決まった。いつの間にか先に来ていた若者がいない。どのコースで行ったのやら？林道の脇の草は霜が降りて真っ白です。コエチ谷登山口に入る。しばらく林道が続く。小川に橋が架かっている。この橋が滑る。本当に危ない。皆が滑る滑ると言いながら渡っている。渡り終わると急登です。ほぼ直登に近い登りです。何本のロープが延々に上に伸びている。急登で滑る、ロープを掴んでも滑る。どこまで登っても終わらない。ふくらはぎ、アキ

レス腫も痛くなってきた。地獄の様な登りです。ようやく分岐に着く。ひと休みです。鳥越峠から雲海が見えた。風が無いので雲が谷に留まっている。なかなか見られない光景です。素晴らしい！いよいよここから三高尾根です。また急登の連続。でも先より少し緩やかだ。少し余裕も出てきた。紅葉も綺麗だ。根本に雪を発見。次第に雪が広がってきた。木々も完全に落葉してきた。やがて一面真っ白になってきた。新雪で歩いた跡が無い。雪も深くなってきた。友清さんがラッセルしながら登っていく。雪が有ると急登も登り易くなる。すべて友清さんのおかげです。頂上に着くと積雪は50cm位は有るだろうと思われた。頂上は風が通るので非常に寒い。風を避けるため少し下に下りて昼食です。今日の昼食は先日食べに行ったとり野菜なべです。白菜をピラミッドに盛り、かき氷を食べるが如く次第に小さくなっていく。熱々の白菜は冷えた体を温めてくれた。最後にうどんを入れ、美味しくいただきました。温まったところで下山開始です。狭い尾根をラッセルしながら歩いて行きます。右に琵琶湖、下を見ると登山口、前には伊吹山、左は白くなった山並みと紅葉が素晴らしい。東峰らしき場所に着くが表示が無い。少し進むとラッセルの跡がある。先に出発した若者が東尾根コースで登りここで断念したと思われる。ここからは本格的に下りになる。雪道の下りは楽です。エスカレーターに乗っている様に下りて行ける。かなり下りた所でブナの木が大量にまとまって倒れている。風の通り道だと感じた。金居原登山口との分岐に着く。かなり雪が少なくなってきた。次第に冬から秋になってきた。季節の逆転現象です。この季節ならではの体験です。しかし雪が無くなると歩き難い。また滑る。でも三高尾根よりずっとまじだ。急坂が短い。林道にでる最後の急坂もジグザクに下りるのでたいしたことは無い。林道に出て、滝に谷の滝を見に行く。夜這いの水と表示あり。何の意味があるのでしょうか？長い林道を歩き駐車場に戻る。久しぶりにきつい登りの山でした。

「編集後記」

今年も大変お世話になりました。あまり山行には参加していませんが^^;会員の人達が少しでも楽しい山行の思い出になるよう編集をさせて頂いています

編集での誤字脱字等、お詫び申し上げます。どうかよいお年をお迎え下さい。

日本勤労者山岳連盟発行「登山時報」では、労山会員の皆さんからの投稿写真を募集しています。

登山時報投稿写真係 <mailto:tozanjiho@jwaf.jp>